令和７年度第１回栗東市行政改革懇談会議事要約

令和７年９月２５日（木）
午前 10 時 00 分～11 時 45 分
栗東市役所４階　第３・４委員会室

【出席者】
委　員：新川委員（座長）、土山委員、筈井委員、廣瀬委員
事務局：市長、副市長、教育長、議会事務局長、政策推進部長、総務部長、行財政調整監、市民部長、健康福祉部長、環境経済部長、建設部長、都市整備部長、こども家庭局長、教育部長
企画政策課長、情報政策課長、情報政策課係長、企画政策課事務局担当
【欠席者】前神委員（書面にて意見聴取）、政策調整監

１. 開会

２. 挨拶

３. 懇談テーマ

（1）第九次栗東市行政改革大綱　実行計画について（資料2～5）
（2）栗東市 DX 推進計画について（資料6～7）

《資料説明（事務局）》
（省略）

《前神委員から事前にいただいた意見の紹介及び意見に対する事務局の回答》
（１）行政改革大綱実行計画について
・数値化されない取組については、どういう状態にもっていくかが重要であり、それが見えにくい。このシート以外で取組を検証する機会を設けた方が良い。
⇒ご意見を基に検証する機会について検討する。

・担当課がこのシートを埋めるだけの仕事にならないようにしていただきたい。その取り組みを通じて、どんな風によくなっていったかを表記してもらいたい。
・シートの裏面の「今後の方向性欄」にどんなことに意識して記入してもらいたいかなど、

わかりやすい例を示し、どんな風に変わっていったかを書いてもらう必要がある。（行革で行っている取組が目指す姿に近づいて行っているという実感を持ってもらわないと担当課もただシートを埋めるだけの仕事になってしまう。）

⇒ただシートを埋めるだけにならないよう担当課に記入を依頼する際には、どんなことに意識して記入してもらいたいかを示していく。

・企画政策課が各担当課にヒアリングなどを行わないと担当課が行っている取組を評価する者がいなくなり、成果が見えにくくなる。

⇒各担当課へのヒアリングについては、今後検討する。

・他市の事例を見ていると行政改革は一定進んだので、その取組は他の計画に委ねられ、栗東市のような事務事業ベースの行政改革大綱を作成していない市もある。

⇒次期大綱の策定時の参考意見にさせていただきたく。

・こういったシートを使って担当課が取り組んでいくのであれば、自己点検を行える仕組みが必要と考える。それにはシートの記入マニュアルや行革担当課からのメッセージをきちんと届ける必要がある。
・その中で人事課と共同で研修し、職員の意識改革を行っていくのも行政改革を推進するうえで重要な要素となる。（行革担当課で描いているストーリーを職員に共有していくことも重要）
・取組シートを各担当課に記入してもらうまでにそういった意識共有を図ると効果的と考える。

⇒ご意見をもとに、各担当課で取組シートの記入までに当課としての思いや意識を共有できるような機会を検討する。

（２）日報管理について

・日報管理については、地方公務員自体で役所内の事務事業以外を兼業として行う人が今後増えていくと思われるため、職員が細かく管理されるものだと時代にそぐわないと思われる。（現に条件不利地域の職員は兼業を行っている事例がある。）
・他市で行っている事例だとグループウェア内のスケジュール機能に「今日の仕事で気づいたこと」「本日の業務内容」など簡単に記入してもらうだけでも仕事のなかでの気付きを共有することが可能となり、職員にとって役に立つと思われる。
・外部に委託しなくてもDX化で十分対応可能と思われる。

⇒日報管理の導入検討の参考意見にさせていただきたく。

《質疑応答》

≪質疑≫

[委員]

・全体の話からすると、計画の進捗や実施の難易度について詳細な情報がないと当懇談会での議論が難しい。各事業で、うまくいっていない事業、悩ましい事業を出していただいて、その情報を聞きながら話をすることが合理的だと思う。

・もう１つ、日報はとても大事だと思っていて、やるべきだと考えている。働き方改革と言いながらも実際、どの事業にどれぐらい時間をかけているのかが共有されていないことについて、とても問題意識を持っている。効率的で職員の負担を軽減するシステム（アプリ）を導入することで職員の負担を軽減できる。また、ガントチャートなどのツールで業務の引き継ぎの効率化を図ることができるため、導入された方がいいと思う。

[座長]

・大きく全体の話と、日報管理に関連してガントチャートについてお話をいただいた。どちらかというと民間企業の製造工程の管理システムから開発されてきた工程管理の技法だが、それをうまく使って事業の複数年度の引き継ぎがスムーズに進むような仕組みのご提案もいただいた。

・事務局から今の時点で困っていること、お気づきの点があれば、ご発言いただきたい。

[事務局]

・今回ＤＸ推進計画を初めて作ったので、特にデジタル化、ＤＸの部分では今後やっていかなければいけないと思っている。

・行革の部分については、特にスクラップアンドビルドによる事務事業の見直しということで掲げている。事務事業の見直しも毎年、予算コード別に各課に照会をかけ、市主催事業についても行事の振り返りをすることで見直しを行っているが、なかなかスクラップの部分が難しいと思っている。

[委員]

・計画全体を検証し、事業の進んでいるところはそのまま進めて頑張っていただければいいが、進捗が遅いところについて、もう少し状況がわかる資料をいただけると、具体的な役に立つコメントができるのではないかと思った。

[事務局]

・ＤＸ推進計画の進捗については、こういった懇談会の場でご報告をさせていただきたい。ＤＸという言葉ばかりが先走っていて、実際どうなのかというところの理解が少ないとは常々感じている。ＤＸの本質は、単なるデジタル技術の導入ではなく、市民目線での行政サービスの再構築、政策業務そのもののあり方の見直しが大事になってくるので、こういうシステムを入れれば、それでいいということではなく、変革していきたいその先に、このシステムを導入しなければいけないというような認識が、広く職員に浸透していけばいいということで、特に人材育成の部分については、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

[座長]

・9月末で半期が過ぎようとしていますが、ＤＸ推進計画、行革の実行計画の進捗状況について、把握は始めておられるのか。

[事務局]

・ＤＸについては、進捗の把握を進めさせていただいている。今のところ、標準化の部分について我々も大変苦慮しているが、本年 12 月 22 日に、ガバメントクラウドの方の移行が完了するというところで、そこから運用開始ができる。安定運用が課題になると思うが、今のところ計画通りさせていただいている。

・行政改革大綱実行計画に記載している取り組みだが、5 年間で進めていこうと考えていて、まだ着手していないものもある。今年、進行管理の中で見直しをしていきたいと考えている。今の時点で全体の確認はしていないが、下半期にかけて次年度の計画を作っていく中で、確認をしていきたい。

[委員]

・先ほど話のありました日報のところにも少し関係してくるが、日報のアウトプットだけに意識を傾けていくと、何のためにやっているのかわからなくなる。つまり、制度に支配される働き方になってしまうと、どうしても自立的な仕事の仕方ができない。今回の計画では、何のために日報管理や自治体標準システムの標準化に取り組むのかということが個人的には気になった。ＤＸについてもただツールを導入して職員が楽になり、それでＤＸ完了というような短絡的なものが結構多いと感じる。ＤＸにおいてツール導入だけでなく、データ戦略を通じて目標達成を目指す必要がある。その点では、今回、掲げられている 4 つの方針の、目標と施策の関連性があまりないことが気になっている。要は、市民がどう思ったかというインパクト的な指標と、これだけやっていくというアウトプットの数字は立っているが、その間にあるアウトカムを達成した結果、今回の 4 つの方針にどう影響したのかをきちんと示していくことが大事なのかと思う。

[座長]

・日報管理、ＤＸそれぞれ、何のためにやっていくのかという整理が、きちんとついていなければ、やっても意味がないというご指摘もいただいた。その点でも、それぞれの実行計画の中で目標として挙げておられるところと、個別具体的な対策との関わり方について、目標を達成する上でどの程度貢献するかということは、議論しにくいところがあるが、やはり意識をしておかなければ、本当の意味でそれぞれの施策が、施策のための施策、あるいは事業のための事業になってしまう。そこのところを、ご注意いただいたのかと思っている。

[事務局]

・アウトカム指標の部分について、行革大綱を作っていく中で、なかなかアウトカム指標を立てられなかったので、実行計画の中でのアウトプット指標という形で示して、進捗度合いを図っていきたい。確実なアウトカム指標が立てられるようであれば、そういったものも加えていきたい。

[委員]

・日報管理について、私も各地に行って、日報管理を導入してくださいと一生懸命言うがなかなか実施されない。日報管理を、何のためにやるのかが大事だと思う。日報管理に対する職員のモチベーションアップには、スローガンなりを掲げていくしかないと思う。日報管理では、システムにお金をかけるのではなく、集計分析にお金をかけた方が良いのではないかと思う。

・この行政改革実行計画とＤＸ推進計画に同じシートが付いている。実行段階の効率化の問題として、どちらにも付いているシートをそれぞれが管理していくのであれば、業務が重複していないかという心配がある。最初の説明では、行政改革大綱実行計画の 4 ページに、デジタルの視点もあるので「D」が付いている、と言われたが、こちらにも全く同じものがあるということで、何枚も同じものを書くという時間の無駄が出ないのか。

・資料５の行政改革大綱実行計画の 7 ページ、「4.取組シート」について、誰がいつ、どういうタイミングで作り、どういう PDCA サイクルで回すのかが、一番大きな疑問としてある。何年周期で外部評価をするのか、ということもある。内部だけではなく、外部の専門家に必ず何年かに 1 回はローリングして評価してもらうということが大事だと思っている。また、取組シート内には、最終的な目標を成果指標として可視化させるため、アウトカム指標の記入欄が必要である。また外部評価の欄がないので、ぜひ作っていただきたい。毎年、外部評価する必要はないが、3 年、あるいは 5 年に決めて外部評価していただいて、評価を公開する、ということをしなければいけないかと思った。

[座長]

・日報の議論で、大規模なシステムをコンサル、あるいはＩＴベンダーに依頼を、ということではないのではないか、というお話もいただいた。

・2 つ目、行革ＤＸについて、誰がどのように管理するのかという実行段階での管理の仕組み、あるいは二度手間にならないか、という問題点を指摘された。

・3 つ目、この実行計画のシートそのものが、本当に実行を確実なものにしていくものになるように、たくさんのご指摘をいただいた。これらについて事務局の方からお考えがあればお願いしたい。

[事務局]

・日報管理については令和 3 年度、4 年度に、アウトソーシングにより実施し分析を行った。それに基づき、適正な人員配置に向けて取り組んだが、今なお職員の負担感が残っており、職員の負担感の解消が課題となっている。日報管理のあり方について、アウトソーシングだけではなく内製化、ＡＩ、ＤＸ、アプリを使った中で、職員に負担をかけない形での日報管理に取り組んでいきたい。先ほど、委員からご指摘があったマインドということもあろうかと思うが、やはり記録を残す時間、手間、職員の負担が前回の課題でもあったので、そういった負担が少ないような日報管理の実施に向けて取り組んで参りたい。

[事務局]

・2点目、3点目について、ご説明をさせていただきたい。まずシートの重複の関係で、一般的なやり方ではないかもしれないが、総合戦略と行革大綱のそれぞれにＤＸの部分があるので、3つの計画を一緒に進めていきたいと考えて、関係課で話し合いをした。取組シートについては、３実行計画で共通のシートを用いるために作らせていただいた。シートが共通で、3つの実行計画を一緒に進行管理していこうと思っているので、職員の手間としては、1つのシートで関連のある計画に綴じていくというように考えている。

・アウトプット指標、年次計画、アウトカム指標の点についてもご意見をいただいたが、総合戦略もたくさん取り組みがあり、そういった部分も一緒に考えていくと、どの取り組みでも全部アウトカム指標を作っていくことが難しかった。実はアウトプット指標自体が設定できていない取り組みもあるので、それについては年次計画の進捗度合いで図っていこうと考えている。アウトカム指標の考え方については今後、課題として持っておきたい。

[委員]

・アウトカム指標について、一気に全部やろうとしても難しい。何年かかけて構築していくことも大事かと思う。

[事務局]

・外部評価の部分でもご意見をいただいたが、進行管理のご説明ができていなかった。全ての取り組みについて、外部評価を行えるかわからないが、年に 1 度、こういった懇談会を設け、取り組みの確認をしていただくことで外部評価とさせていただきたい。すべての取り組みの評価をしていくわけにもいかないので、おっしゃっていただいたように数年に一度の評価については検討したい。また評価欄についても検討していきたい。

[委員]

・他の自治体でも、こういう取り組みをさせていただいているが、やはり全事業を評価することができない。事業を絞ったうえで、担当課、財政課、行革課、我々のような専門チームで評価をしていく必要があると思う。例えば補助金の廃止を提言しても、職員が市民や団体に廃止する理由を説明できなかったことがある。ただ、そういった改革を本気で行い、説明責任を果たせる職員の資質向上、レベルアップが最終的な目標になるので、ぜひご検討いただきたい。

[座長]

・特にこういう改革を進めていくときに、そもそも現場の職員の方が、何のためにやっているのか、どういう目標で、そのための手だてとしてこの改革を進めているのかということに、納得・理解をして、ご自身の口から説明ができる状態をどう作っていくか。少なくともその助けになるような計画でなければいけないということだろうと思っている。なかなか大変だが、そのためにも実行計画の毎年度の改善も、多少できるかと思う。様式等も含めて、前向きにどんどん良いものに変わっていくという意味で、進化していっていただけるといいかと思う。

[事務局]
・市長も冒頭申しましたが、計画を作って進行管理するだけではなく、職員自体もレベルアップしていけるような考え方を持つといったことも含めて、今後検討していきたい。

[委員]
・今回の計画の中で、自分が気になっているところがいくつかあって、各委員の皆様のご意見も聞きながら懇談できればと思っている。
・今回のＤＸ推進計画にＤＸ推進員を置くと書かれているが、概して形骸化しがちだと思う。担当者を置くと、皆が他人ごとになってしまって、うまくいかないことがある。ＤＸは、ＤＸ担当だけではなく皆でしていくものだと思っている。今回、ワーキンググループを設けられるというところで非常に楽しみにしているが、人的交流があると良いと思うので、交流の仕組みを模索されるといいのではないか。
・ＧＩＳについては、庁内で活用することもすごく大事だが、利用ニーズのあるような企業、団体とのコミュニケーションも取っていかれると、より可用性のあるＧＩＳが展開できるのではないかと思う。その意味において、利用者がどう思うかがすごく大事で、市民ニーズを踏まえた利用設計が必要であり、市民の利便性を重視した行政改革を進めるべき。

[事務局]
・1 点目のＤＸ推進員については、職員全員がＤＸ推進員という意識づけを持ってもらえるような思いも込めて、各所属１名以上という形で募集させていただいた。現在 54 所属で、1 所属 1 名であれば 54 名だが、最終的には 65 名ということで複数名推薦いただいている課もある。いかにこのワーキンググループをうまく活用していくかが、この推進体制の肝になる部分かと思っている。
・ＧＩＳについては、現在ワーキングループを立ち上げ、導入に向けて検討を進めておりますので、利用者目線というような視点も含めながら、業者選定、仕様の確定等に努めて参りたい。

[委員]
・ＤＸ推進員に指定されると組織の中で孤独になってしまうことがあるので、そうならないようにしていただきたい。ＤＸ推進員が求められるスキルマップを明確にしていくことは、安定的な職員確保にも繋がってくると思う。ＤＸでどのような人材が必要かというところを対外的に示していくうえでも、スキルセットの明確化はとても大事だと思っている。ぜひセットで検討いただけるといいのではないかと思う。

[事務局]
・今いる職員の育成という部分と、新たな採用という部分の連携が図れるように、関係課と調整し取り組みを進めて参りたい。

[座長]
・ＤＸの専門職員のスキルセット、あるいはスキルマップみたいなものについて、ぜひご検討いただきたい。併せて先ほどユーザーオリエンテッドなデザイン思考という話もい

ただいた。ＤＸを進めていくときに、内部システムの議論が中心になるため、どうしてもユーザーインターフェースのところまでで止まってしまう。本当に市民にとって使いやすい、わかりやすい、便利だと思ってもらえるシステムになるかについては、もう 1 歩外に出て全体見なければ、デザインしにくいかもしれないというご指摘もいただいているため、改めてご確認、ご留意いただきたい。

[委員]

・人事異動の際にガントチャートを踏まえた引き継ぎ書の作成を行っていただき、ガントチャートプラス TO DO を整理しておくと、引き継ぎが大変効率的に進むとお伺いした。引き継ぐ自分にも引き継がれる自分にも役に立つものであれば、目的と効果を感じることができるのではないかと思った。

・データベースで事業ごとのシートは作っているかお伺いしたい。事業シートも作るのは大変なので、できるだけ簡素にというところがあるが、事業別予算決算があってそこで進捗管理ができるというところで、うまくシステムを作っておられるところが岐阜県の多治見市である。総合計画を作るときに事業別評価をすると、この事業は必要だという説明を、そのシート上でしようとする。総合計画の政策目標に政策的事業は全部ぶら下がっていて、そこに入っていない事業はしないという自治体である。事業に全部コード番号がついていて、総合計画を作るときに予算と連動させて、その事業が必要だという説明をしてしまう。つまり、日々の進捗管理は、総合計画のときに作ったものをローリングしながら、進捗を確認するだけでいいので、事務事業シートも必要ない。総合計画を作るときの個別事業シートで進捗管理をできればとても楽だと思う。スクラップアンドビルドを行うときに、事業の体系整備みたいなことをしたほうがいいと思う。各事業でどれぐらいの工数がかかっているのかについて、日報とも事業コード番号で紐づけて管理されたほうがいいのではないかと思う。今の事業の管理のされ方、どのように把握しておられるかを存じ上げないので、このようなお伺いをしました。

・もう 1 点、資料 5 の行革大綱実行計画の 15 ページ、G-4、「窓口での申請サポートや出張申請、休日開庁、延長窓口を行い、今後急増する更新者を含め、円滑に手続きできる体制を整備する。」というところがあるが、人員の構成はどうなっているのか。動けない方がおられるので、ご自宅に行ってお手伝いするのだと思うが、それはどのようにされておられるのか。

[事務局]

・1 点目の事業の体系の話で、栗東市の総合計画については、政策・施策・基本事業という形で構成をしております。その中には岐阜県の多治見市のように、体系だって逐一紐づいているというような作り方はしていない。それは課題としても持っていて、総合計画に書いてある事業もあれば、書いていない事業もあり、その管理方法についても課題として思っている。全体の進捗管理として、総合計画の基本事業レベルでの進捗管理は行っているが、個別の事業の進捗を全体的に市全体で管理しているということではなく、担当課の方で進捗管理をしている。いろいろな計画があり、その整理統合の中で事業の

体系立て、整備も確かに必要かと思っているため、今後の参考にさせていただきたい。
・マイナンバーを庁舎に出向いて申請等ができない方々へのサービスとして、Ｇ－4 にも記載の出張サービスを継続して実施している。マイナンバーカードの更新について、多くの市民が来られるところへの体制ですが、正規職員、会計年度任用職員及び人材派遣など、必要に応じた人的な体制をとっている。また手が空いている職員が交代で、フロアマネージャー的に前さばきをしていて、申請に来られた方に、申請書の書き方等について、窓口の手前でもサポートさせていただいて、できるだけお待たせしない形で対応している。

[委員]
・1 点目については、個別計画もいろいろあり、国の省庁の助成を取ると、それに伴って計画を作らなければいけないといったことがあるので、事業がコード番号で管理されることは、計画を作るときや評価するときの負荷も軽減されるのではないかと思う。全体的なコントロールや全体的な把握は必要だと思う。最初のイニシャルコストがかかるところだが、コード番号を使った個別計画の整理は、いずれした方が良いのではないかと思う。

[委員]
・行政改革ということで推進された取り組みを、次年度予算に反映させるような仕組みについて教えていただきたい。

[座長]
・せっかくの評価はどうやって活かすのか、というご質問だと思う。

[事務局]
・行革懇談会で毎年ご意見を頂戴して、次の年の予算に反映したい。

[委員]
・ぜひ懇談会で悩んでいることについて教えていただきたい。計画を 1 年間動かしてみて、悩んでいることなどを教えていただけると、より実りのあるやりとりができるのではないかと思う。

[委員]
・マイナンバーカードについては、金融機関としても重要な課題で、犯収法の改正で、令和 9 年度 4 月から本人確認の手段がマイナンバーカードに一本化される。この改正は、金融機関だけではなく、例えば質屋等の民間企業でも大きな影響を及ぼすところである。マイナンバーカードの普及については、官民が連携し、普及啓発に取り組んでいく必要があるのではないかと思う。こういった部分での官民連携が、行政改革に及ぼす影響はあると思っているので、連携は積極的にやっていきたいと思っている。

[座長]
・マイナンバーカードが更新時期を迎えてきているため、金融機関、その他関連の事業者の方とも連携しながら、更新がスムーズに進むように、そして利用がさらに広がっていくようにしていただきたいとのことであった。

[委員]

・単純計算ではこの 2 年間で 7 割ぐらいの住民が更新しなければいけないので、実は一大事業になるが、皆が気づいてない。

[座長]

・とにかく全国民が持っているという前提になっているため、大変な事業であるがよろしくお願いしたい。

[委員]

・最後に 1 点、63 ページ、G-28 の「働きやすい職場環境づくり」に、「フレックスタイム制の導入検討、テレワークの活用、育休取得しやすい環境づくり、週休 3 日制の導入検討、開庁時間の短縮を実施する。」とあって、こういった取り組みは、進んでほしいと思っているが、介護の部分があまり考慮されないことが多い。いろいろな観点での働きやすさ、育児だけではなく介護、障がいを持たれている等があると思うので、そういったところでの働きやすさを、できるだけ網羅しにいくようなアプローチは、この中ではすごく大事かと思っているので、ぜひお願いしたい。

[座長]

・テレワークそのものがポストコロナで、もう一度、対面型・事業所型に回帰しつつあるという傾向も一方ではある。テレワークそのものの価値や予算みたいなもの、もちろん対面で同じ職務環境を共有するということで両方なければいけないが、そこのバランスをどう考えていくのか、改めて検討しなければいけないところがある。テレワークの質をどのように、より良く向上させていくか、要するに本当に一人一人の働きやすさ、それぞれの家庭環境にどのようにフィットするテレワーク環境を提供できるかが、ポイントかと改めて思う。今後、テレワークの推進ということだけではなく、その中身を改善していくような方法を一緒に盛り込みながら事業を進めていかなければ、なかなか成果が上がらないということかもしれないので、ご検討いただければと思う。

・ＤＸにしても行革にしても、何のためにやるのかという目標をより具体的に設定し、それを実際に担当する職員の方々に、しっかり心に留めておいていただくということ。そしてそれのもとでそれぞれの事業、事務というのを進めていただく。目的と仕事がきちんと結びつくような実行計画にしていただくための手助けになるのがこの実行計画でもあるという位置付けにしていただきたい。そのためにはこの実行計画の記載事項についても、さらに改善の余地があるのではないか、というご意見をいただいた。

・もう 1 つは、日報管理というところで、これまでのご経験も踏まえて改めて、日報のシステムを導入し全体の業務の見直しを考えておられるということで、これはこれとして当然やっていただかなければいけないと思っているが、同時に具体的な方法や効果が上がる日報管理ができるかどうか、ここはしっかりと議論をしていただいて、できるだけ安価で効果があるものという議論でもあったので、そのあたりも踏まえて進めていただきたい。日報管理のノウハウについて、行政の中できちんと蓄積をしておかれることも必要かと思う。

・それぞれ個別には、事務の効率化にあたって本当にどういう成果を上げていくのか、こ

れをどう確実にしていくのかというところが、大きな論点だと思う。本当にここまで改善ができたといったところを明確に示すことができれば一番良いが、それができなかったときに、どのように改善できるかが課題となる。これは、ＰＤＣＡサイクルをどのようにうまくまわしていくのかという仕組みも含めて、この行政改革、ＤＸの実行計画では求められているということであるので、どのようにこの計画の運営管理の中で進めていかれるのか、ぜひそこの仕組みをしっかりと確立をしていっていただきたい。

・大きな４つ目として、行政改革もＤＸも内部向けの話がたくさんあるが、結局市民の皆様方にとって暮らしやすい、使いやすい、できれば自分たちにとって有用な行政が一番ありがたいわけであるため、そういう視点をしっかり持って、この改革のデザインを進めていっていただきたいということであった。

・ＧＩＳ、テレワーク等いろいろ議論もありましたが、単に目先の改革だけではなく、最終的に利益が帰着をする、市民１人１人にとって良い改革改善であり、同時に職員の方々にとっても働きがいがあり、しかも合理的に働ける職場づくりに繋がっていく、そのようなデザイン感覚を、ぜひ持っていただきたい。

５. 閉会

[副市長]

・職員のレベルアップの話をしていただいたが、私どもも人材育成の基本方針を庁内で議論したところで、議員への説明力というところも含めて職員のレベルアップもしっかり考えて参りたい。また、ＤＸは皆でやっていくというところも重要だと思う。ただ年齢を重ねて参りますと、ＤＸに対して何が良くなるのかがわからない部分もあるが、ＤＸ化によりある業務の時間が１時間程度削減されていた。職員 1,000 人が、１時間短縮できれば 1,000 時間になり、シンプルにＤＸの良さがこういうところに発揮されていると感じた。それは 1 例で本来の行政ＤＸの目的ではないが、そうしたところも含め、しっかり進めて参りたい。

以　上